

84

自然發生乳癌の増殖に對する米糠油不飽和化合物の影響

永島 學 田中 繁巳

(大阪帝國大學醫學部木下病理學教室)

1938年當教室の岡田¹⁾は Butter Yellow による發癌實驗に、米糠油を加重投與して、肝癌發生が可成り著明に抑制せられることを證明した。此の實驗は實に發癌の食餌的影響に關する研究の端緒を拓いたものである。其後黍、高粱、小麥、酵母、工業用オリーブ油、牛肝末等にも實驗的發癌を抑制する物質の存在すべきことが確實となり、有効物質の探究は今日に及んで着々と進められて居る。他方自然に發生した癌の治療的研究も發達して來た。例へば最近 Lewisohn-Leuchtenberger-Leuchtenberger-Laszlo (1941)²⁾は自然に乳癌を發生した 38 匹の廿日鼠に廿日鼠の脾臟抽出物或はビール酵母の抽出物を注射することによつて、乳癌を完全に退行治癒せしめることに成功したと云ふ。

當教室に於ては、米糠油不飽和を結晶性部分(試料 I)と非結晶性部分(試料 II)とに分ち、又別に其のアセトンに對する溶解の難易により、之を四つの分割に分けて Butter Yellow 發癌に對する抑制効果を検討して居るが、今回は其の中の試料 I 並に分割 1, 3, 4 (但し 4 はビタミン E を除く)に就て自然發生癌の増殖に對する抑制効果の有無を精査した。大體試料 I には分割 1, 2 が、試料 II には分割 3, 4 が含まれて居ると考へてよい。腫瘍の材料には、C₃H 並に DBR 系廿日鼠の雌に自然發生した乳癌を選び、實驗開始前、腫瘍の計測と寫眞撮影をなし又組織切除によつて腫瘍の組織學的検査を行つた。又被檢物質は夫々 1% オリーブ油溶液として、腹腔内に 2-6 回注射を試み、腫瘍の増殖の有様を觀察した。其の成績は表 I の通りである。

1) 岡田傳一：大阪醫學會雜誌。37卷，827頁，1938。

2) R. Lewisohn, C. Leuchtenberger, R. Leuchtenberger and D. Laszlo: *Am. J. Path.* 17, 251-260, 1941.

表 1

廿日鼠の種別及び番號	乳腺腫瘍發生時の至後月數	腫瘍の組織學的診斷	注射せる物質別	注射回數	抑制効果の有無
C ₃ H, 2102	15ヶ月	腺癌	試料 I	3	無
" , 9.52	8 "	"	"	2	"
" , 2104	16 "	"	分割 1'	3	"
" , 4104	8 "	"	"	4	"
" , 4102	8 "	"	分割 4	6	"
" , 2 CG	16 "	"	"	6	"
" , 3302	11 "	"	分割 3	3	"
DBR, 313)	10 "	"	分割 4	6	"
" , 3124	12 "	"	"	6	"

以上の成績を見るに、米糠油不飽化物の各分割成分は之を腹腔内注射によつては自然發生の乳癌の増殖に對して、殆んど認むべき抑制効果を示さない様である。

(受附：昭和 17年 2月 26日)